

かみかざ 髪飾り

髪を結い、様々な色、柄や材質のかんざしや櫛くしを用い
ておしゃれを楽しみました。



かんざし

涼しげなガラス製のかんざしは、夏に使用されたと考えられます。江戸時代末期に流行したようです。



ちょう くし
蝶柄の櫛

参勤交代などのおりに、大名が休泊した栗橋宿本陣の跡から、蝶柄の櫛が出土しました。江戸時代、栗橋宿本陣は、この地域を開拓した池田氏が、代々本陣役を務め、池田氏の家紋は揚羽蝶あげはちょうでした。

展示した蝶柄の櫛は、池田氏が所有していたものである可能性があります。



あげはちょうもん
本陣家紋（揚羽蝶紋）の
おにがわら
鬼瓦

くりはししゆく 栗橋宿について

江戸時代、日光道中で江戸日本橋から数えて7番目の宿場でした。栗橋は利根川水運の要地であり、渡船場とせんばを利用して関所が置かれていました。

今回展示している栗橋宿跡から出土した化粧用具や装飾品からも、人々の往来によって賑にぎわっていた当時の宿場の様子をうかがうことができます。



開催日程

ティアラ 21 2階 BUNKYODO 前
令和5年8月26日(土)・27日(日)

モラージュ菖蒲 3階滝のコート前広場
令和5年9月23日(土・祝)・24日(日)

ららぽーと富士見 3階 R SHOP 前
令和5年10月21日(土)・22日(日)

そごう大宮店 3階連絡通路
令和5年11月11日(土)・12日(日)

イオンスタイル入間 2階エレベータ前
令和5年12月9日(土)・10日(日)

主催 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催 埼玉県教育委員会

久喜市教育委員会

富士見市教育委員会

後援 熊谷市教育委員会

協賛 ららぽーと富士見・そごう大宮店

協力 株式会社ティアラ 21・双日商業開発株式会社

令和5年8月22日発行

編集・発行

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108

埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

TEL 0493-39-3955

URL <https://www.saimaibun.or.jp>

発掘！さいたま出土品展
ほろ展2023

江戸
おしゃれ
コレクション

公益財団法人
埼玉県埋蔵文化財調査事業団



みなさま、ごきげんよう

江戸時代、女性のおしゃれについて、久喜市栗橋宿跡から出土した化粧道具やかんざしなどを展示し、ご紹介します。

江戸時代の化粧

江戸時代女性の化粧は、肌を白く見せるために、顔だけでなく首・衿足・肩まで白粉を塗り、唇や頬、目元には紅をさしました。また、お歯黒といって、歯を黒く染める風習がありました。

おしろい 白粉

江戸時代の「白粉」、今で言うファンデーションは、水銀を原料とした軽粉（水銀白粉）と鉛を原料とした鉛白（鉛白粉）でした。

鉛白粉は、伸びが良く、安価であったので水銀白粉よりも普及しましたが、身分の高い女性は高価な水銀白粉を使っていたようです。



白粉三段重は、下段に水、中段・上段のいずれかに白粉を入れ、もう一方で溶き合わせる白粉道具です。

白粉三段重



べにけしろう 紅化粧

紅はルージュとして唇にさすだけでなく、今で言うところのアイシャドウのように目の際に塗ったり、チークのように頬にも使いました。



べにちよく
紅猪口

紅猪口は陶器の猪口に紅をはきつけたものです。



指や筆を水で湿らせて、中に塗りつけてある紅をとり、唇につけました。



こまちべに
「小町紅」

主に京都で作られた「小町紅」は、江戸時代の紅の高級ブランドでした。

「小町紅」の名称は、平安時代の美女として有名な小野小町に因んだものです。展示品の「小町紅」は「多かき」とあり、京都祇園町の「高嶋屋喜兵衛」（高喜）の紅猪口の可能性があります。



た
「多かき」

はぐる お歯黒



つぼ
お歯黒壺

江戸時代の女性は、結婚に前後して、またある程度の年齢になると歯を黒く染めました。

お歯黒壺は、米のとぎ汁、酢などに古釘や鉄くずを加えてお歯黒水を作るのに使いました。

展示品のお歯黒壺は、徳利を代用したもので、中に釘などがみえます。

かがみ 鏡

このような鏡を用いて、化粧を施したり、髪を結ったりしました。



手鏡

